

世帯と人口

(1月1日現在)

世帯	44,083	(+ 45)
人口	119,161人	(+ 57)
男	60,886人	(+ 15)
女	58,275人	(+ 42)

この数値は平成13年10月31日付けで総務省統計局が公表した平成12年国勢調査の確定数を基に推計しています。

# 広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

おおらかな空間を利用して行われたヘリコプターによる水難救助訓練(写真は1月18日)



えびな模様…中野から

## 地域自治に新しい風

1月18日・22日、水難事故を想定したヘリコプターによる救助訓練が、海老名市消防署と川崎市消防航空隊の合同で行われました。会場は、中野多目的広場。上空に電線がないため、毎年「親子たこあげ大会」の会場となるほか「ラグビー」などの練習場としても使われています。また、中野地区自治会の自主防災訓練会場にもなっています。一昨年からこの訓練は、消防署や消防団、婦人防災クラブなどの協力による消火、応急救護、給食など一連の訓練終了後に、ペットボトルロケットやターゲットボードゴルフのコーナーを設け、参加者は200人近くと盛況でした。このように、多彩な内容で実施できた背景には、自治会組織の大きな改革があります。

### 四つの部会で活性化

「自治会加入者や行事への参加者が減っている」。危機感を持った役員などが「住民のための活動」という原点に立ち返ろうと組織や運営方法の見直しに着手したのは4年前です。「今のままでは会員が減る一方で会の存続にかかわる」「新しい住民にどうしたら参加してもらえるか考えなくては」となどと話し合いを重ね、平成11年「区別も強制もせず、みんな一緒に地域づくりを」という方針が決まりました。

新しい機構の特長は、全体を4つの部会(青少年育成、防災・交通安全、レクリエーション、環境美化)に分け、部会という縦系と会員という横系とで、横断的、かつきめ細かな活動が可能になったことです。また部会それぞれが、PTAや交通安全協会などの各種団体へ、協力を依頼できる体制を整えました。「地域にうるおいと活力を」とキャッチフレーズを決め、回覧物には必ず載せて会の目標が一目でわかるようにもしました。

改革に携わった西海正美さん(現会長)は、「自治会の活性化には、まず多くの参加者を得ること。このため、活動内容など情報の開示を積極的に行っています。さらに、地域全体から参加できる各部会の催しを行って、中野の活力を内外にPRしています」と話します。

人間関係が何かと取りざたされる時代に、自治会のあり方はどこでも大きな課題です。西海さんの言葉と、おおらかな空間を持つ中野の広場から、地域自治の新しい風を感じました。

### 中野 アラカルト

◎人口(1月1日現在) : 25,455人  
 ◎世帯数 : 880世帯  
 ◎面積 : 0.97平方キロメートル(市全面積26.48平方キロメートル)  
 ◎地名の由来 : 社家と門沢橋の間に位置する村という意味で「野」は当て字と考えられている。明治初年に旧来の小字を統合して設定された5つの字のうち3つには、風流の代表とされる月雪花の雅名が導入された雪里、桜野、月ノ浦)。雅名を採り土地の美称とし、繁栄を願ったものと言われている。  
 ※中野多目的広場 : 所在地・中野2312番地、面積・およそ4万6000平方メートル